
モバイル接続料の検証に関する追加質問に対する回答

2023年5月30日
株式会社NTTドコモ

1. 予測値と実績値の差異について

- 株式会社NTTドコモ説明資料P.3で示されたデータ接続料（回線容量単位）の原価の差分について、このうち「施設保全費」と「減価償却費」においても予測値と実績値の比較が出来るよう数値を示して下さい。（佐藤構成員）

回答

構成員限り

(単位：億円)

2. 予測値と予測値の差異について

- 株式会社NTTドコモ説明資料P.5で示されたデータ接続料（回線容量単位）の原価の差分について、このうち「施設保全費」と「減価償却費」においても予測値と予測値の比較が出来るよう数値を示して下さい。（佐藤構成員）

回答

構成員限り

(単位：億円)

3. 冗長構成のイコールフットイングについて

- 一般社団法人テレコムサービス協会MVNO委員会説明資料P.4に示されている冗長構成に関するイコールフットイング確保の提案について、どのように考えるか。（佐藤構成員）

回答

- MVNOにおける冗長構成については、MVNO各社によるご要望に応じて対応を行っております。

構成員限り

4. QoSについて

- 事業者へのヒアリングを通じて、音声サービスについては品質確保のために優先通信を行っており、こうした点を配賦基準の議論の中で考慮すべきとの意見があった。具体的にどのような考え方に基づいて配賦基準にQoSの考え方を反映することが適当と考えるか。計算式やその根拠とともに示してください。（酒井構成員）

回答

- NGNコストドライバの見直しに関するワーキンググループにおける検討の結果の中で示された手順に基づいて、算定された係数を用いて共用設備費用を品質クラス別に配賦する際に重み付けすることが適当ではないかと考えます。

主な検討結果 2

3. 本WGでは、共用設備費用を品質クラス別に配賦する際の重み付けに用いるため、次の手順により、クラスごと及び全クラス合計のトラヒックを入力値として新係数を算定することが適当との結論を得た。

手順1: あるクラスのトラヒックが入力値から一定量増加した場合に、(それにより本来増加するはずの)各クラスの遅延時間を入力値に対応する水準から増加させないようにするために必要となる設備量(出力帯域)を当該各クラスごとに求める。

手順2: 手順1で求められた必要設備量の最大値を取ることで、あるクラスでトラヒック増加が生じても全クラスの遅延時間が増加しないようにするために必要となる設備量を求める。

手順3: 手順2でクラスごとに求めた必要設備量を、最下位クラス(ベストエフォートクラス)について手順2により求めた必要設備量を1とする値に変換して新係数とする。

	クラス4の トラヒックが増加	クラス3の トラヒックが増加	クラス2の トラヒックが増加	クラス1の トラヒックが増加
手順1 クラス1の 必要設備量		$\frac{1/\rho}{C_1 + 1}$		$\frac{C_1 + 1/\rho}{C_1 + 1}$
クラス2の 必要設備量	$\frac{1/\rho}{C_1 + C_2}$		$\frac{C_2 + 1/\rho}{C_1 + C_2}$	$\frac{C_1 + C_2 + 1/\rho}{C_1 + C_2}$
クラス3の 必要設備量	$\frac{1/\rho}{C_2 + C_3}$	$\frac{C_3 + 1/\rho}{C_2 + C_3}$		$\frac{C_2 + C_3 + 1/\rho}{C_2 + C_3}$
クラス4の 必要設備量	$\frac{C_4 + 1/\rho}{C_3 + C_4}$		$\frac{C_3 + C_4 + 1/\rho}{C_3 + C_4}$	
手順2 全クラスの 遅延を解消する 必要設備量	上記の内、最大 ①	上記の内、最大 ②	上記の内、最大 ③	上記の内、最大 ④
手順3 係数化	①÷①	②÷①	③÷①	④÷①

【凡例】
 クラス1: 最優先クラス(ひかり電話等)
 クラス2: 高優先クラス(放送の再送信等)
 クラス3: 優先クラス(フレッツ 光ネクスト プライオ、接続事業者の0ABJ電話等)
 クラス4: ベストエフォートクラス(インターネット等)
 ※以上の括弧内は現時点での主な利用形態(予定を含む)
 ρ : 全クラス合計トラヒックの入力値(出力帯域使用率)
 $C_1 \sim C_4$: 各クラスのトラヒックの入力値(出力帯域使用率)に基づく値
 ※ $C_1 \sim C_4$ の算定式については別紙参照

【新係数の暫定的な算出結果】

		新係数の値			
		クラス4	クラス3	クラス2	クラス1
入力 値	実績	1.00	1.17	1.25	1.26
	将来想定	1.00	1.18	1.23	1.28
(参考: 現行の係数)		1.00	1.00	1.16	1.20

注: 「実績」はNTT東日本の平成29年度トラヒックを入力値として用いたもの、「将来想定」はNTT東日本・西日本が係数の安定的な運用への影響を把握する観点から中長期的な将来を大胆に予測した値を入力値としたもの(詳細後述)。

4. 上記の数式や、その展開方法は、待ち行列理論を基礎として数理的にクラス間の重み付けを算定するため、相田主査及び酒井主査代理からの累次の提案に沿って構築されたものである。

出典：接続料の算定に関する研究会
 NGNコストドライバの見直しに関するワーキンググループにおける検討の結果
 (2019年3月)

© 2023 NTT DOCOMO, INC. All Rights Reserved.

3